（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校（全日制）　令和４年度（２０２２年度）学校評価表

１ 学校教育目標

（ア） めざす学校像
- (ｱ)【徳】コミュニケーションを重視し互いに尊重しあう学校
- (ｲ)【体】自他の生命や身体を大切にする学校
- (ｳ)【知】生徒・職員がともに成長を喜び合う学校

（イ）めざす生徒像
- (ｱ)「至誠」高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる生徒
- (ｲ)「剛健」真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう生徒
- (ｳ)「進取」仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける生徒

２ 本年度の重点目標

本年度教育スローガン

「夢実現・未来への挑戦　～知性と感性を備えた若駒たれ！～」

- (ｱ)「至誠」：ものごとを「肯定」的に捉え、よりよい世界のあり方を「想像」しながらその実現に向けて「貢献」しようとする「誠実さ」を備えた生徒を育てるための取組を行う。
- (ｲ)「剛健」：「挑戦」することをおそれず、試行錯誤しながらも取組を「持続」し、限界「突破」に向けて最後までやり抜こうとする「たくましさ」を備えた生徒を育てるための取組を行う。
- (ｳ)「進取」：ものごとの本質を「探究」するために、他者と「協働」しながら課題に取り組み、新たな解決策を「創造」しようとする「先取性」を備えた生徒を育てるための取組を行う。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態をめざす。	①ＩＣＴの活用等による業務の効率化を進める。 ②時間外勤務の状況等を衛生委員会の機能を強化しつつ検証し、業務改善や業務分担を進める。	B	【成果】各種会議資料をデータで共有し、ペーパーレス、資料印刷時間削減につなげた。衛生委員会で長時間勤務の状況にある職員について情報を共有し、長時間勤務防止対策を検討した。全職員の時間外勤務時間の月平均は、法令で定められた上限の範囲をわずかに下回った。 【課題】 業務改善や業務分担を完結するに至らず、職員によっては上限を大きく超過している状況にある。
	安心・安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に１回、教室や施設等の安全点検を実施し、点検率１００％の状態をめざす。	①学校安全担当が立案し、全職員で取り組む。 ②担任、教科担当者を中心に、生徒の安全意識を高める取組を進める。	A	【成果】安全点検の実施を行い、点検箇所の不具合には素早く対応できた。 【課題】点検実施を迅速に進めるための方策を検討する必要がある。また、職員・生徒の安全意識の高揚を促す必要がある。

学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	新しい学力観に沿った授業力の向上	教科横断的な授業が、より一層実践された状態をめざす。	教育課程検討委員会で単元配列表を作成し、各教科に授業実践を促す。	B	【成果】９月までに単元配列表を作成し、教科横断的な授業の実践が促された。 【課題】学校全体の実践状況や学習効果については調査を実施できなかった。PDCAサイクルを確立し、教科横断的な授業が、個々の職員の取り組みに留まることなく、学校全体に浸透した状態にしたい。また、各教科が作成している「指導と評価の計画」との整合性や、授業実践の内容見直しも必要である。
	個に応じた学習指導	習熟度別授業の工夫	学習到達状況に応じた効果的な授業が展開され、全ての生徒の学力が確実に向上している状態をめざす。	①習熟度別授業を実施する教科・科目を増やし、より個々の学習到達状況に応じた授業を展開する。 ②生徒が自身の学力に応じた課題を、自ら選択できるような学習課題や支援の方法を研究する。	B	【成果】時間割の工夫などにより習熟度別授業を最大限実施し、一定の成果を上げた。 【課題】生徒の学習到達状況に応じた学習課題設定等、個別最適な学びの推進が必要であり、準備のための時間を確保する必要がある。
キャリア教育（進路指導）	進路志望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の充実	生徒の進路志望に合わせた学力の向上と進路目標実現をめざす。	①学年集会やＬＨＲを活用して進路学習を進め、個人面談を通じて適切なコース選択等を促す。 ②文系・理系および特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導および教育活動を行う。	B	【成果】発達段階に応じた学年による進路学習及び面談指導を取り組むことができた。コース選択等は順調に進んだ。 【課題】文系・理系および特進クラスそれぞれの特性を生かした教科指導の在り方について、学年会や教科会等の中で議題にすることで、低学年へ継承していく必要がある。
	進路意識の高揚	生徒の進路意識を具体化するための指導の充実	生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な勤労観や職業観を持つとともに、大学での学びに関する理解を深め、進路意欲が高まった状態をめざす。	①進路指導部でキャリア教育講演会、インターンシップ、若駒キャリア塾（職業別講話）等を企画・実施する。 ②進路指導部で、「一日若駒大学（出張講義）」等を企画・実施する。 ③進路指導部で難関大学対策講座を企画・実施する。	A	【成果】キャリア教育講演会、若駒キャリア塾、難関大対策講座等、実り多き機会を生徒たちに提供できた。 【課題】今後の感染症拡大状況を勘案しながら、個々の生徒のニーズに応じたインターンシップの実践を、より組織的・体系的に生徒に提供していく必要がある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	交通安全意識の励行	生徒が道路交通法や交通ルール、交通マナーを遵守し、無事故、無違反の状態を目指す。	交通委員による交通安全啓発活動を行う。交通安全を呼びかける集会や講習会を実施する。	B	【成果】比較的軽微な事故等は起きたものの、重大なものはなく、安全意識の高揚を図ることができた。 【課題】注意不足による軽微な事故等が発生しているため、安全啓発活動を継続する必要がある。
	生徒会活動・部活動の活性	コロナ禍の中、学校行事を創意工夫し活動す	生徒の意見や思いを尊重しつつ、現状に即した適切な活動が行	①月２回程度生徒会スタッフ間で現状報告と情報共有を実施する。	A	【成果】生徒会執行部は隔週月曜日に自ら集まり、学校行事や校外活動の計画立案・実施に向けた取り組みを行った

	化	る	われる状態を目指す。	②校外で生徒会が取り組む行事を企画する。		。 【課題】校内の各種委員会の取り組みについての啓発・活性化の必要がある。
		文武両道の推進	活動指針に沿った部活動が計画的に実施された状態を目指す。	毎月、活動計画を把握すると同時に、各部活動顧問と連携を進める。	B	【成果】活動指針に沿った部活動が計画的に実施されていた。 【課題】より長期的な活動計画を立てて部活動に取り組む必要がある。
人権教育の推進	推進体制の整備・充実	人権教育推進委員会の充実	人権教育推進委員会を適宜開催し、活発な議論が行われる状態を目指す。	①計画的に人権教育推進委員会を開く。 ②議論を実践に反映させる。	A	【成果】毎週開催を原則としたので、昨年度に比べ活発な議論と共通理解を図ることができた。 【課題】各学年に依存したところが多いのが現状である。
		職員研修の充実	人権意識の高揚に資する研修が実施された状態をめざす。	①人権教育推進委員会で検討を行い能動型・参加型の研修を増やす。 ②可能な限り講演等の機会を設ける。	B	【成果】班別協議を含む対面での研修や外部講師を招いての講演会を実施できた。 【課題】研修時間の確保が十分とはいえない。
	命を大切にする心を育む指導	授業の充実	特設授業の充実と、人権教育の視点を備えた各教科の授業が実践された状態をめざす。	①特設授業について教材の更新を行う。 ②授業における配慮事項等について職員間で共通理解を図る。	B	【成果】学年の協力もあり、スムーズな実践ができた。図書・教育情報部との協力により、情報モラルに関する学習及び研修の充実を図った。 【課題】教材の更新については更なる努力が必要である。
		啓発の充実	必要な情報や知識を職員・生徒・保護者に理解されている状態をめざす。	①人権教育推進委員会を通じて生徒・職員に必要な発信を行う。 ②保護者向けの通信を発行する。	B	【成果】情報端末を活用した相談窓口の紹介など、昨年度までよりも効果的な情報発信ができた。 【課題】保護者向けの通信は発行に至らなかった。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	生徒・職員の意識の高揚	いじめ防止基本方針等の理解促進と、心のきずなを深める月間をはじめ、年間を通した啓発活動が充実した状態を目指す。	①「心のアンケート」の年３回実施や、日頃のコミュニケーションを通じていじめの早期発見・迅速な対応に努める。 ②生徒支援委員会等を活用して、職員研修の充実を図る。	B	【成果】年度初めの職員研修や生徒支援委員会を通じていじめ問題や生徒に対する理解を深めることができた。「心のアンケート」等によるいじめ防止についての取り組みも担任・学年との連携が強化され、迅速な情報収集や対応が可能となった。 【課題】法律の定義にもとづくいじめの捉え方について、さらなる研修が必要である。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	関係職員の生徒情報、支援策が共有され、親身になった教育相談等が実施された状態を目指す。	①生徒支援委員会、特別支援委員会、いじめ防止等対策委員会を定期的に開催する。 ②担任面談の時間を確保する。 ③SC、SSWの活用方法について周知する。	A	【成果】生徒支援委員会・いじめ防止等対策委員会の定期的開催は予定通り行った。毎週月曜日に特別支援教育について、話合いや情報共有を図ることができた。担任面談やSC･SSWについても活用できている。 【課題】情報共有はできているが、有効な支援や支援の検証に課題がある。担任や学年の負担も大きい。

地域連携(ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど)	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	２年間行われなかった育友会総会や学校行事については、特に育友会と事前に話し合い、円滑な運営と連携の再構築を目指す。	①育友会だよりの作成において、広報委員会の活性化に協力を進める。 ②育友会総会、体育祭、若駒祭、小岱山一周大会での協力を進める。	A	【成果】総会に向け十分な話し合いを行い、実施することができた。広報委員会にもできる範囲で協力いただいた。 【課題】育友会活動は可能な範囲で協力いただいているが、コロナ禍の影響もあり生徒と関わる場面が少ない。今後は育友会だよりで、育友会が生徒と接する活動について詳しく紹介していきたい。
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	総合型コミュニティ・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けて、活発に議論が行われる状態を目指す。	①年間２回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に活かす。 ②地元自治体（玉名市）との連携を強化する。 ③上級学校（大学等）との連携を強化する。	A	【成果】２回の学校運営協議会を開催し、多様な視点から多くの意見を伺うことができた。玉名市との連携も進み、進学フェアへの参加や本校の探究活動への協力、および意見交換ができた。また、本校主催の若駒大学への講師派遣や熊本大学主催のワクワク連続講義への参加など連携が進んだ。 【課題】これまでの取り組みを継続しつつ、探究活動を柱とした玉名市や熊本大学等との連携を強化し、組織的に取り組めるよう具体化することが必要である。
健康保健指導	健全な心身の育成	健康診断後の早期受診指導と治療率向上	受診が必要な生徒の意識を高め、治療率が向上した状態をめざす。	①健康診断後、治療勧告書を早めに配付する。 ②保健便り等を配付し受診を促す。	A	【成果】今年度もコロナ禍の影響により日程の変更があったが、学校医等の協力により実施できた。健診後は速やかに治療勧告書を配付できた。 【課題】「ほけんだより」による啓発や未受診者には再度治療勧告書を配付するなど、受診率や治療率が向上するような取り組みが必要である。
		外部講師等を活用した健康に関する意識の高揚	心身の健康に関する意識を高め行動化できる状態をめざす。	①コロナ感染症対策を行いながら、講演会を開催する。 ②保健便りの発行等による啓発を行う。	A	【成果】台風により講演が延期されたが、感染症拡大防止対策に配慮しつつ、計画どおりに実施することができた。 【課題】講演前後の指導を充実させ、効果の定着を高める必要がある。
	環境教育の推進	学校版ISOの取組と環境美化活動の推進	環境週間や環境美化への取組が徹底された状態を目指す。	①学校ISOを策定し、周知する。 ②美化委員会を中心に美化チェックを活用し、環境美化に対する意識を向上させる。	A	【成果】学校版ＩＳＯについて生徒用と職員用を策定・周知し、環境美化活動を推進することができた。美化委員と保健委員で役割分担しながら美化チェックを実施し、意識の向上につなげることができた。 【課題】環境週間への呼びかけや意識づけをさらに工夫していく必要がある。
新しい学びの推進	言語力向上および探究的活動の充実	読書活動の推進	ICTを活用した図書館作りを行い、多くの生徒が利用している状態を目指す。	①図書館蔵書検索サービスを導入し、生徒のリクエストに積極的に応じるなど、親しみやすい図書館づくりを進める。 ②図書館終礼、朝読書、「考人」発	A	【成果】蔵書検索サービスを導入し、個人で読みたい本の有無を確認できるようになった。今年度も図書館終礼、朝読書、「考人」の発行を定期的に行うことができた。 【課題】図書館の改築に伴い、古い本の廃棄を行う必要がある。本校の規約の見直し等

				行等を行う。		を行い、本の廃棄・整理等を進めていきたい。
		総合的な探究の時間を中心とした、学校教育活動全般における探究的活動の展開	SDGsに関する課題研究に取り組み、課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現というプロセスを通して、主体的・協働的な態度、問題解決能力、およびプレゼンテーション能力を身に付けた状態を目指す。	①探究活動の基礎を学んだ後、グループ別の課題探究活動から個人による探究活動へと研究の深化を図る。 ②プレゼンテーションや論文などから優れた研究を選び、外部のコンクール等に出品する。	A	【成果】年間計画に沿って探究活動を計画的に実施できた。また、校外での発表会への参加や、関係諸機関と連携したワークショップの実施ができた。 【課題】課題研究によって生徒のどのような資質・能力が変化しているのか示したデータ（アンケート結果等）をもとに活動内容を精査し、課題研究の意義やその質を向上させる工夫を加えたい。
	ＩＣＴを利用した学習活動の充実	「先行実践校」としてICTの先端的な利活用研究の推進	職員の情報活用能力の育成を目指す。	①定期的な職員研修を実施する。 ②職員のICT活用スキル向上を、校務の情報化につなげる取組を工夫する。	B	【成果】今年度も学期に１回職員研修を行うことができた。また、各々の職員が工夫しながら、授業においてICTを積極的に活用する場面が多々見られた。 【課題】会議でのChromebook（タブレット）活用によりペーパーレス化が進んだが、分掌や学年によって意識の差が見られるため、引き続きペーパーレス化を進めていきたい。
		新学習指導要領の円滑な実施	ICTを活用することで、効果的に「主体的・対話的で深い学び」が実現された状態を目指す。	①学習活動における「習得」の場面でのICTの積極的な活用を進める。 ②学習活動における「活用」「探究」の場面を重視した授業改善を図る。	A	【成果】授業でのICT活用が進み、公開授業対象の全クラスで「生徒の情報活用能力を高める場面のある授業」の実践に挑戦できた。 【課題】学習指導要領および本校の教育目標に照らした更なる実践の工夫とその情報の共有の循環が活発になされるような職員風土づくりに努める必要がある。
中高一貫教育の推進	６年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	スクール・ミッションやスクール・ポリシーについて共通理解が深まり、中高の全教職員が協働して、６年間または３年間で生徒を育成する指導体制が確立された状態を目指す。	①ルーブリック表を作成し「９つの資質・能力」の修得状況を検証する。 ②６年間の単元配列表を作成し、附属中における数学・英語以外の先取り授業を検討する。	B	【成果】人間的成長全般について、生徒が自身の現状を客観的に省みる機会となった。また、職員も資質・能力と関連付けた指導を明確化できるようになった。 【課題】１・２学期を比較すると、１年生はレベル４（最高レベル）の生徒の割合が減少した項目が多かった一方、３年生では増加した項目が多かった。今後は学校生活に慣れ始めた２学期に１年生をしっかりと伸ばす指導体制の構築が必要である。

	進路希望に応じた学力の向上	個別に最適化された学びと協働的な学びの一体的推進	生徒一人一人の学習到達状況や学習習慣の状況を全職員で共有し、学習支援に効果的に活かすことで、進路志望が実現された状態を目指す。	学力検討会を実施することで、情報共有を図り、個別最適化された学びと協働的な学びを一体的に推進するための具体策について検討する。	B	【成果】学力検討会を１，２学年で実施した。生徒の実態を把握するとともに、効果的な学習支援の在り方について学ぶ機会となった 【課題】個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進は、まだ不十分である。指導と評価の一体化の推進と併せて、授業改善を行っていく必要がある。

４ 学校関係者評価

【学校経営】
・働き方改革については、本協議会の資料を簡素化することが一助になればと思う。また、アンケート項目も多いので、ポイントを絞って厳選するべきだと思う。
・志願者数が５年ぶりに１倍を超えたということは、学校の取組および生徒の成長等についての理解が、中学校等に伝わった成果が表れたものだと思う。しかしながら、学校の情報はなかなか伝わらないので、ＰＲ方法の工夫を引き続き行ってほしい。
・先生方が元気でなければ、良い教育活動はできないし、地域も元気にならない。本協議会は「地域の光」ともいうべき学校や先生方の応援団である。これからも、しっかりとサポートしていく。

【学力向上】
・幅広い学力層の生徒それぞれに、とても丁寧に対応し、着実に成長をサポートしている。
・高校にも観点別学習状況評価が導入され、先生方の評価疲れがとても心配だ。教育の不易と流行をふまえ、新しい評価の在り方を工夫しながら、前向きに取り組んでほしい。

【キャリア教育（進路指導）】
・コロナ禍のなかでの様々な制約にもかかわらず、共通テストにおいて優れた成果がでていることはとても素晴らしい。引き続き、生徒それぞれの進路希望実現をサポートしてほしい。
・３年ぶりに、キャリア教育講演会等の本物に触れさせる取組が完全に実施できて、生徒のキャリア形成に成果が出ているようなので、とても喜ばしい。

【生徒指導】
・生徒がとても落ち着いて学校生活を送っている様子がうかがえる。引き続き、安心・安全を第一に、充実した教育活動を展開してほしい。
・玉名高校の卒業生と触れ合う機会があるが、そのたびに、それぞれがとてもユニークであると感じる。玉名地域には、学校を応援しながらともに生徒を育てようとする環境が整っていると感心している。

【人権教育の推進・いじめの防止等】
・先生方が、生徒一人一人を大切にする教育活動が行われてきたことが生徒・保護者のアンケート結果からうかがえる。今後も継続した取組を期待している。

【地域連携（コミュニティー・スクール）など】
・地域の中学校との連携については、まだまだ工夫の余地がある。例えば、職業人だけではなく、高校生を招いたキャリア教育の取組ができると面白いと考えている。
・中高連携だけでなく、高大連携についても、より本質的な在り方を追求していく必要がある。生徒が生涯を通じて学びながらキャリアを形成し続けられるよう支援していかなければならない。
・本協議会では、各委員から形式的ではなく、本音の意見が出されるので参加するのがとても楽しみだ。今回もとても有意義な会になったと感じている。
・アフターコロナを見据えた職員・保護者・地域との新しいかかわり方を模索する段階に至っていると思う。

【健康保健指導】
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた着実な取組により、感染拡大期においても学級閉鎖等の措置を取る必要がなかったのは素晴らしい。

【新しい学びの推進】
・学際的な学びを評価することは確かに難しいが、世の中に価値を生み出すためにもとても重要である。ベースとなる論理的思考力や言語能力、科学的思考力等を育む教育活動に一層力を入れてほしい。

【中高一貫教育の推進】
・附属中学校から玉名高校に進学する生徒とともに、市町村立中学校からの入学生がともに切磋琢磨できる学校づくりに一層努めてほしい。

【その他全般】
・本校の最大の魅力は、全日制、定時制、附属中学校が並置されていること。それぞれの特徴がうまく関わり合い、生徒たちがさらに成長できる学校となるようしっかりサポートしていきたい。

５ 総合評価

本年度も昨年度を踏襲し、教育スローガンを「夢実現・未来への挑戦」～知性と感性を備えた若駒たれ！～とした。

各項目（26項目）の評価はＡ：13項目、Ｂ：13項目、Ｃ：0項目、Ｄ：0項目という結果であった。また、12月に実施した生徒・保護者・教職員への学校評価アンケート及び学校関係者評価においては、概ね高い評価を得た。今後も日本や世界の様々な分野で活躍できるグローバル人材や地域社会の発展をけん引できるリーダーの育成を目指し、地域の進学拠点校として生徒や保護者、地域から信頼される学校づくりを推進したい。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により学校生活に影響は及んだが、昨年度実施できなかった修学旅行や体育祭、キャリア教育講演会が再開されるなど、感染拡大防止対策を講じながら多くの行事等を実施することができた。学校評価アンケートでは「学校行事等において活発な活動が行われている」の項目で生徒・保護者とも肯定的な評価が約95%に達するなど、学校行事に対する高い評価を得ることができた。

また、ICTを利用した学習活動においては、授業においてICTを活用する場面が多々見られたと同時に、授業に参加できない生徒に対してリモート配信を行うことで確実に学びを保証するなど、積極的に推し進めることができた。学校評価アンケートにおけるICTを利用した教育活動に関する項目についても、生徒・保護者とも肯定的な評価が９割を上回った。

また、「玉名高校に入学させて良かった」という項目においても９割以上の保護者が肯定的な評価をしており、本校の教育活動に対して信頼を得ているものと考える。

地域連携については本年度２回開催した学校運営協議会において、委員の皆様から本音で忌憚のない意見を伺い、今後学校を経営していくうえで非常に有意義な会となった。また、玉名市との連携も進み、進学フェアの参加や本校の探究活動に対して協力をいただいた。

６ 次年度への課題・改善方策

教科横断的な授業の実施や生徒の学習到達状況に応じた学習課題の設定をはじめとする、学力向上に向けた取組のための授業改善の推進が必要である。授業準備の時間を確保すると同時に、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進に向けた具体策について検討を深めたい。

学校評価アンケートの結果より６年間を通じた中高一貫教育指導の充実に対する教職員の肯定的な意見が半数に留まっており、多くの教職員が中高一貫した指導の充実を課題として捉えている傾向にある。今後は各教科・各分掌等における中高それぞれの取り組みについて共通理解を図ると同時に、中高が協働して６年間、あるいは３年間で生徒を育成する指導体制を確立する必要がある。

探究活動については年間計画に沿って計画的に実施し、一定の成果を上げている。次年度以降も大学や自治体、企業等の関係諸機関との連携をさらに深め、課題研究の質を向上させる取り組みを行う必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大により学校行事や業務の形態が変化し、業務について見直すきっかけとなった。教育的効果について検討したうえで、教育活動の精選・統合や活動の形態を変える等の取組をとおして、業務改善と働き方改革の推進につなげたい。

また、本校での教育活動についての情報を地域や自治体に積極的に発信したり、地域への貢献を意識した教育活動を継続したりすることで、地域からの信頼を獲得し、生徒募集にもつなげたい。